

ずいじ「おじちゃんせんせい」

江津市都野津町の作家村尾靖子さん(68)が、埼玉県の保育園で「おじちゃん」と慕われた男性と園児たちの交流など実話を基にした絵本「おじちゃんせんせい」を出版した。だ「いすき」(今人舎)を出版した。

園児と保育員の交流、絵本に

男性は、村尾さんの講演を通じて交流がある保育園「行田子羊チャイルドセンター」(行田市)の用務員だった松本儀重さん。昨年7月、病気で70歳で亡くなるまで遊具いりや庭木の枝切り、給食の手伝い、園児たちの写真撮影、泣きやまない子をおんぶしての散歩など、何でも器用に対応した。松本さんがあぐらをかくと、園児たちは競うように話を取り合った。

村尾さんは、そんな心温まる触れ合いの数々を、松本さんの姉で保育園を運営する社会福祉法人「こひつじ会」理事の市川益子さん(85)から



保育園玄関の松本儀重さんの遺影の周りには、卒園児らの花束や手紙が置かれている。埼玉県行田市若小玉

卒園生の手紙や花束、遺影に

死後に教えてもらった。心を打たれて出版社勤めの知人に相談すると、絵本作りが決まった。

絵本は32ページ。おかあさんが恋しくて泣く子どもをおんぶし、「がまんせんでええぞ」と優しく見守る。運動会や農作業と一緒に取り組み、園児たちと仲良くなっていく。だがある日、元気がなくなったおじちゃんせんせいは、いなかのうちに帰っていく。イラストレーターの本山祐司さんが優しいタッチで描いた。松本さんは晩年、体調がすぐれなくとも保育園に来て2階の応接間で横になって、園児たちの元気な声に耳を傾けるのを楽しみにしていた。

市川さんは「子どもたちと心でつながり癒やしになっていたのかも」。亡くなった後、小学生や高校生らの卒園児が手紙や花束を持ってきてくれるのをみて、そう感じたという。

村尾さんは亡くなる数日前に保育園を訪ねたとき、松本さんが「また会いましょう」と見送ってくれた姿が忘れられない。「園児たちに愛情を注ぎ続けた、彼の生き方を伝えたいと思った。多くの人に読んでもらえたら」と話している。1470円。書店で購入できる。(小林一茂)



絵本を出版した村尾靖子さん。江津市都野津町

石見

山陰名産
あじ野焼・あじす巻

長岡屋

白湯店
TEL(0852)27-8911
FAX(0852)27-8651

北堀店
TEL(0852)24-5577

工場・浜乃木店
TEL(0852)27-8911